

朝日町エコミュージアムコアセンター「創遊館」

# エコミュージアムルームだより



第4号

発行日 平成19年2月1日 発行 朝日町役場政策推進課 編集 NPO法人朝日町エコミュージアム協会  
 エコミュージアムルーム電話&FAX 0237-67-2128 エコミュージアム協会HP <http://www12.ocn.ne.jp/~a-ecom/>

エコミュージアムルーム（通称エコルーム）では、エコミュージアムの総合案内とエコミュージアムに関する調査・研究、資料収集・保存、普及などの業務を行っています。NPO法人朝日町エコミュージアム協会が朝日町より受託して運営しております。開館時間 9:00~17:00 月曜休

平成18年度「山形学」地域連携講座助成事業

## 「おらほの最上川学 朝日町五百川峡谷編」の終了報告と御礼

今年度のエコミュージアムの主テーマは「五百川峡谷」。これまで、その成り立ちや歴史、漁、水質、そしてカヌーに至るまで、精通する町民の皆さんや学者からお話を伺う講座を8月から5回にわたり開講しました。（主催/NPO法人朝日町エコミュージアム協会 朝日町教育委員会）そこから五百川峡谷特有の姿が見えてきました。

各講師の皆さん、取材させていただいた皆さん、現地見学で対応してくださいました皆さん、最上川第一漁業組合の皆さん、SOIL W-PLAYの皆さん、ボランティアの皆さん、参加してくださいました皆さん、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

また、「おらほの最上川学～五百川峡谷編～」を計画するにあたり、下記の皆さんの宝報告書を参考にさせていただきました。ありがとうございました。



モガミガワ君 作・あき

宝を報告してくださった皆さん

- 「綱曳き絵」「最上川舟運の難所」
- 「最上川舟運の跡綱手道」花山護さん
- 「最上川」橋間英梨さん 白田ゆかさん  
長岡孝晃さん 長岡清弥香さん
- 「河原の石（雪谷に行く途中の最上川）」  
菊地勇貴さん
- 「雪谷の河原」鈴木美穂さん
- 「家から見た最上川・五百川橋」鈴木和人さん
- 「上郷ダムを訪れる白鳥」  
近藤みなみさん 五十公野ゆうさん  
細谷浩司さん 五十公野泰弘さん  
安藤文紀さん 佐藤雅彦さん  
堀智哉さん 長岡佑輔さん 橋間英梨さん
- 「最上川で水泳ぎしたこと（真中）」  
堀拓未さん祖父
- 「明鏡橋」清野愛さん 熊谷由美子さん
- 「10年前まであったダムまつり」長岡かよ子さん
- 「明鏡橋物語」「夏草と最上川と雪谷の風景」  
安藤竜二さん
- 「男はつらいよのロケ現場最上川」小野重信さん

以下は、パネルになった宝です。

- 「最上川渡し場の研究」若月啓二さん
- 「五百川峡谷 上流部の晩秋景」五十嵐武喜さん
- 「上郷ダム～最上川本流唯一のダム～」  
橋間友則さん
- 「明鏡橋～その歴史と数々の思い出～」  
佐久間淳さん
- 「筏流し」堀惣次郎さん

あさひまち宝さがし 2002～2006



### 展示のお知らせ

只今「創遊館」エココーナーにて「おらほの最上川学 朝日町五百川峡谷編」の各講座の報告や関連資料の紹介、ビューポイントマップ等の展示をしています。是非ご覧下さい。資料もお譲りできます。

### エコミュージアム・カルタを配布しました

地域の宝を遊びながら学べる教材として、12月に町内小学校1年生の児童の皆さんに「朝日中学生が選んだまちの宝ものカルタ（通称エコミュージアム・カルタ、エコカルタ）」を配布しました。

エコミュージアム・カルタは通常エコルームで販売しております（1個900円）。

※売上金はエコミュージアム活動費として大切にに使わせていただいております。



### エコミュージアム案内の利用受付

#### 《平成18年度 9～12月までの案内状況》

- 9月 全国農業青年交換大会 西村山地区現地交流委員会 49人  
大谷小学校6学年 22人
- 10月 福島大学 18人  
河北町若葉町健康づくり協議会 50人  
最上町下小路公民館 17人
- 11月 産業振興課 朝日連峰バスツアー 15人
- 12月 福島県三島町役場 5人

ご利用いただきありがとうございました！

## 朝日町宝ファイル No. 0604 「最上川舟運と五百川峡谷」

### 金比羅・象頭山信仰と舟運

朝日町長寿クラブ連合会で調査して発行下さった『朝日町の石佛』によると、朝日町には象頭山・金比羅権現の石碑が全部で22基ある。江戸時代末期に作ったものが多い。香川県琴平郡にある金比羅権現は、舟乗りや舟乗りに関係する人たちやその家族が信仰していた。最上川を下って、日本海の西廻り航路を通して江戸に行くにも大阪に行くにもそこを通る重要な経過点なので、安全航海するためや家内安全も含めて信仰していた。舟の仕事をする人がだんだん増えた証拠といえる。

### 最上川舟運の展開と特色

舟運が急速に発展したのは、江戸時代に全国が幕府により統一され、税金を重たい米で納めるようになってから。便利な川船や海船がどんどん使われるようになった。

最上川舟運開発の大きな出来事は、最上義光による碁点、三河の瀬、隼(村山市)の三難所開削。ここを砕く事により、山形から酒田まで通れるようになった。

数十年後の寛文年間には、河村瑞賢が西廻り航路を開発した。これが大きな出来事になったのは、起点が最上川河口の酒田だったから。それは、最上川流域に20万石近い幕府の領地ができ、税金としての米を江戸まで運ばなければならなかったため。海のルートも最上川のルートもしっかりしたものが必要だった。

### 元禄時代の最上川舟運とその後

元禄時代に、最上川舟運に米沢藩の参画があった。寛文年間まで、米沢藩は置賜地方と福島に30万石を持っていた。しかし、寛文四年に15万石に減らされ、今の福島県分がなくなってしまった。これにより、それまで江戸に米を出す場合は、福島へ陸送して阿武隈川から東廻り航路で運んでいたのを、最上川を通すようにしなければならなくなった。通るようになったのが有名な西村久佐衛門の開削だった。西村は米沢藩の御用商人。自らも多額な投資をして五百川峡谷を開削した。

五百川峡谷にはおそらく、それまで作業用の舟や渡し舟はあっても、左沢まで一貫して通る船はなかった。

開削のおかげで常時川船が通れるようになった。これは大きなこと。ここだけでなく、中流、下流まで通ったのだから、最上川全体にとっても大発展だった。この五百川峡谷開削は大革命だったと言える。

最上川船請負差配役は、いろんな人が所有している川船をうまく動かすために全体を統括する人のこと。享保年間からはじまり寛政年間の60~70年位続いた。ただ、最終的にはかなりの困難をきたし、差配役だけでは任せられなくなり、川船役所を作った。差配役と幕府の役人と両方で川船の統制をやって乗り越えた。

その頃、米沢藩では御手船(大名の船)を作った。上流は小鵜飼船だった。小鵜飼船は左沢からは下っていけない。左沢から下流の酒田まではひらた船(艀、平田)だった。寛政4年の記録では、小鵜飼船は100俵積み、50俵積み、50俵積みが48艘。あわせて60艘位が左沢から上流、五百川峡谷とか白鷹、長井の方まで上り下りしていた。

### 五百川峡谷の舟運

朝日町大舟木村の川船番所の管理は米沢藩だった。船数、怪しい荷物の取り締まり、規定以上の荷物の取り締まりなどをしていた。一石楯村(夏草)の大庄屋佐竹長右衛門家は、米沢藩の通船差配役をしていた。船子(水主)雇い、綱手道の管理、梁仕掛けの管理、破船の救出における人足割り当て、払い米の世話などの仕事をしていた。米沢藩の安全な通船を図る仕事をしていた。

(一部要約)



写真 最上川舟運図屏風 (宮坂考古館 所蔵)

詳しくは 財団法人 宮坂考古館 (米沢市東1-2-24 0238-23-8530)



### 横山昭男 (よこやま あきお) 氏

昭和5年10月山形県大石田生まれ。

昭和28年3月山形大学卒業。昭和35年3月東北大学大学院文学研究科修士課程修了。昭和45年より山形大学教育学部に勤務。講師、助教授を経て教授となり、平成8年3月退官。この間、山形大学教育学部附属小学校長、山形大学附属博物館長、同大学附属図書館長を歴任。現在、山形大学名誉教授・文学博士、山形県地域史研究協議会会長、山形文化財保護協会会長 その他。

主な著書 『上杉鷹山』(吉川弘文館) 『近世河川水運史の研究』(吉川弘文館) 『近世地域史の諸相』上、下(中央書院) 『羽州山形歴史風土記』(東北出版企画) その他 最新刊 『最上川舟運と山形文化』(東北出版企画)

※この他、「羽州川通絵図」(山形県立博物館所蔵)や、「松川舟運図屏風」(米沢市 宮坂考古館所蔵)の写真スライドで峡谷や舟運、村々の様子もご紹介いただきました。なお、詳しい講義資料はエコルームで複製致しております。